「審議会等の会議結果のお知らせ」

第３回佐賀市協働指針策定市民会議の会議結果について

平成２０年９月２５日に開催しました会議の概要は下記のとおりです。

記

１　開催日時　　平成２０年９月２５日（木）　午後７時００分から午後８時３０分
２　開催場所　　アイ・スクエアビル５Ｆ大・中会議室
３　出席者
〔佐賀市協働指針策定市民会議委員〕　１１名（欠席１名　吉村重幸委員）
上野景三会長、富吉賢太郎副会長、石田美恵子、大野博之、川副知子、
小林紀、伊東史朗、徳永浩、西山新太郎、多良淳二、白木紀好
〔事務局〕７名
市民生活部長　横尾徹
市民活動推進課　課長　西川末実、木島愼治、前田賢一郎、橋本京子
総合政策課　武富将志、松尾幸樹
４　議題
○前回の市民会議内容、庁内ワーキンググループ会議内容について
○「(仮称）佐賀市の参加と協働を進める指針（案)」について
○今後の進め方についての確認・共有
５　会議の公開又は非公開の別　　公開
６　非公開の理由（会議を非公開とした場合に限る。）
７　傍聴者数（会議を公開した場合に限る。）　０名
８　議事前の進行
①横尾市民生活部長あいさつ
②上野会長あいさつ
９　発言の内容
〔会長〕
○市民会議も６回予定の半分である３回目になったので、今後のスケジュールを確定したい。

【事務局説明】
■第２回市民会議の討議内容について
〔事務局〕
○別添会議内容要旨のとおり。「はじめに」で誰のための指針か明確にする、佐賀市らしさを盛り込むなど、大きく６点が挙げられた。

■第２回庁内ワーキンググループの討議内容について

〔事務局〕

○別添会議内容要旨のとおり。指針の目的や対象が不明確であること、全体の構成や文章量などが課題として挙げられた。

○佐賀市が発信者となり、佐賀市の協働の進め方を示す内容とする、中学生などにもわかりやすい表現とすることは別に機会を設ける、など５つの対応策を掲げた。

〔委員〕

○市民会議の討議内容と庁内会議で出された意見が類似しており、的確な指摘がなされていると思う。

■「(仮称) 佐賀市の参加と協働をすすめる指針（案)」について

〔事務局〕

○指針案はｐ１～ｐ４７のとおり。

○目次を見ることで、どの箇所に何が書いてあるかわかるようにした

○各章最初のページに「本章のポイント」を設けた。

○１０章、おわりに、付編で記述する内容は市民会議で意見をもらいたい。

【討議】

〔委員からの質問・意見〕

○「はじめに」での記述のとおり、佐賀市が発信者となり、まちづくりに関わろうとする「あなた」へ送る指針とすることで対象がわかりやすくなった。

○内容も佐賀市の考え方をまとめたテキストとしての性質で整理されている。

○「はじめに」と本編中で使われている「まちづくり」という言葉で意味が違うようだ。言葉の使い方で共通の意味があるならば、考え方を記述しておくべきだ。

○企業を含まない「市民活動団体」に代わる言葉として、公益活動団体、自主活動団体、協働団体という名称が考えられる。

NPO を別の言葉で現すと、日本では市民活動団体と呼ぶことが多いので、この指針では「市民活動団体」の名称でよいのではないか。

○全体に関わる内容の２章はレストラン経営の例えを用いながら、３章で急に市民、企業という表現が出てきて流れが悪い。

○市民活動に携わる人が現在自分がどの位置にあるか確認できる鳥瞰図があればわかりやすい。

○４章で課題を提示しているので、５章以降で課題の解決策が必要だ。

○４章でいう課題はこれで全てか。

○７章（４）の「数によるカタチ」は（１）～（３）と全く異質なので、数よりも関係性によるカタチの方がわかりやすいのではないか。

○前回に比べかなりわかりやすくなった。

○前回までの他都市を参考にしていたのと異なり、今回の指針案では佐賀市らしさがみえ

る。
○もっと絵があってよい。文字が多く、最初からの流れで最後まで読まないとわかりづらい。最初にフローチャートをのせて、どこを見ればよいかわかりやすいようにする。
○全１０章の構成を３つのパートにわけてはどうか。原理・原則を知る、佐賀市を知る、課題解決策の３つ。知りたい人は１パート、具体的に使いたい人は３パートを見ればよい。
○指針を読むことで自分も協働をやってみたくなるようなメリットや成功事例を掲載してはどうか。９章になじみやすく、取り組みやすい事例を挙げたらよいのではないか。
○佐賀市らしい図が載っていない。佐賀市が捉える市民活動団体の範囲を示してはどうか。
○５章を魅力的にし、これから取り組む人を引き込むような記述がほしい。
○ｐ４１図は一般的なＰＤＣＡサイクル図に近いので、協働の原則を考えるなど「協働のＰＤＣＡサイクル」に書き換えてはどうか。
○自治会の取り組み内容と指針の記述内容では差がある。回覧でわかるようにするには、何回かにわけて絵やグラフで協働がどういうものかわかるようにすればよい。
○行政はｐ１２の８行目、「価値観等」のように「～～等」として含みをもたせることが多いが、指針では含みをもたせないようにしてほしい。
○具体例を挙げるとそれだけが協働のように捉えられる恐れもある。
イメージが固定化しないように、現在の市民活動の立ち位置からどのように発展していくか、イメージが膨らむ程度の事例の記述はあった方がよい。
○８、９章の内容は各委員から個別に挙げてもらってよいのではないか。

〔具体的に指摘のあった箇所〕
○「はじめに」の「・・・共通の考え方のもとで・・・」と書くと「共通って何？」と疑問が生じる。そこで“「参加」と「協働」のよりどころ”とすればわかりやすい。
○ｐ６の協働の中身の「役割分担を行う」⇒「役割を担う」
②組織と組織の関係の「成果や効果は高い」⇒「多い」
③対等な立場は「それぞれ」が３つ続いているので、削除可能な部分がある。
○ｐ２０の図表の文字が抜けている
○ｐ２１③ゴシックで統一する。
○ｐ２５　守るべき原則のべきは言葉が強いのでは。協働の原則でよいのでは
○ｐ３０　他と字体が違って見やすい。
○ｐ４１　図がわかりやすいが小さすぎて見えにくい。大きくし、グレーをとっては。
○ｐ４３　事例がもう少しわかりやすくならないか。子育てサロン、栄の国まつり、バルーン等いれては

〔事務局〕
○内容を盛り込みすぎるとわかりにくくなるので、まず協働の主体である市民と企業、行政が協働の意味をしっかり理解する指針とする。中学生など対象別にわかりやすくすることは、概要版の作成など今回とはわけて考えたい。

○「みんなで住みよい地域をつくっていこう」という意味で「まちづくり」を表現した。

■今後の進め方
○第４回市民会議で、今回の修正と不足分を書き足した指針案を委員に提示する。
○第４回市民会議で討議し、修正した内容を第５回（１１月末）の開催前に各委員へ送付し、所属団体で検討してもらう。
○第５回市民会議にかける指針案をもとに、パブリックコメントにかけることを検討する。
○１２月に市民会議で最終確認し、１月の完成を目指す。

１０　今後の日程
第４回会議は、１０月２４日（金）１９時～２０時３０分、大財別館４－１、４－２で開催する。

１１ 問い合わせ先
佐賀市　市民生活部　市民活動推進課 市民活動推進係
担当　前田・橋本
電話番号　0952－40－7078